

愛知県内における特定外来生物ソウシチョウの生息状況

愛知県環境調査センター ○清水美登里、加藤景子

はじめに

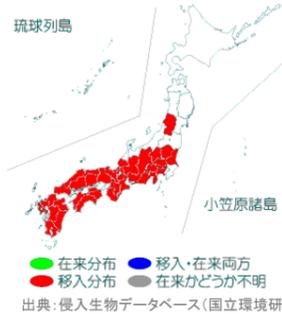
愛知県では、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)で特定外来生物に指定されているソウシチョウ(*Leiothrix lutea*)が近年目撃されるようになった。そこで、愛知県で1967年から県内22地点で行っている鳥類生息調査結果をもとに、愛知県内のソウシチョウの侵入時期及び生息状況と在来鳥類に及ぼす影響について調査した。

調査対象種及び方法

ソウシチョウ



- 江戸時代から飼い鳥として輸入
- 野外では1931年に兵庫県の六甲山で確認
- 飼い鳥の逸出や業者による大量放鳥により、1980年前後から個体数が増加



出典: 侵入生物データベース(国立環境研究所)

ソウシチョウと生息環境が類似している在来鳥類

- ・茂った林の中を好む
- ・食性が昆虫、果実、種子

VS

コマドリ



絶滅危惧Ⅱ類(県レッド)

コルリ



準絶滅危惧(県レッド)

ヤブサメ



絶滅危惧Ⅱ類(県レッド)

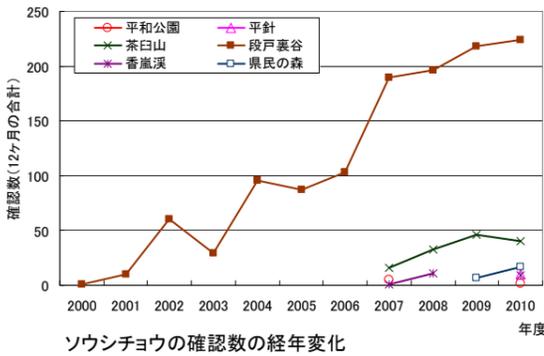
ウグイス



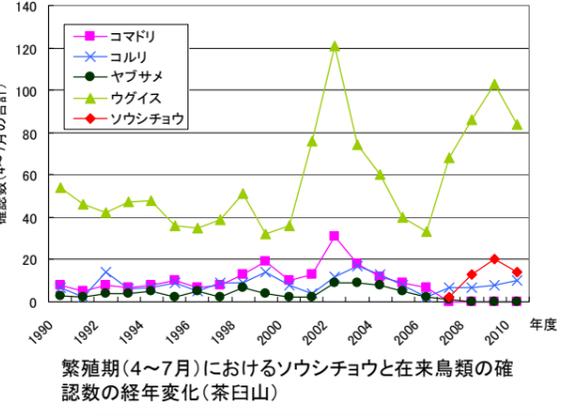
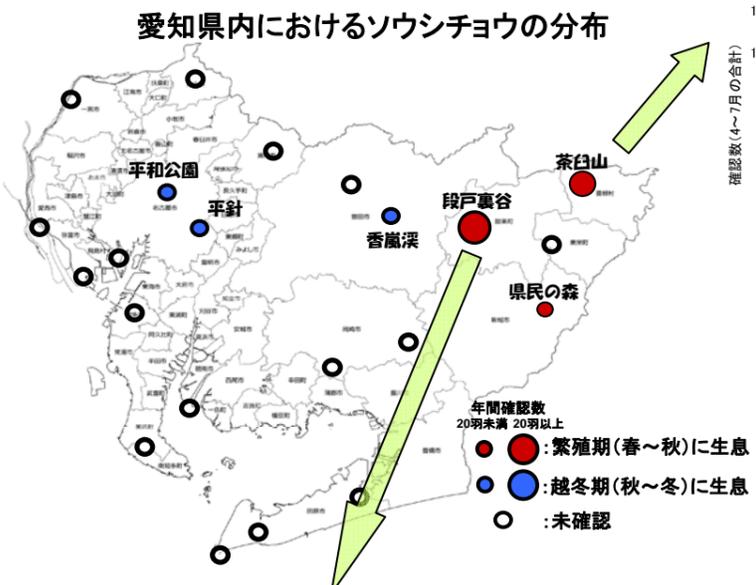
絶滅危惧Ⅱ類(県レッド)

愛知県では鳥類生息調査として、毎月1回ラインセンサス法により確認した鳥類の種類と数を調査票に記録しており、そのデータをもとに解析を行った。

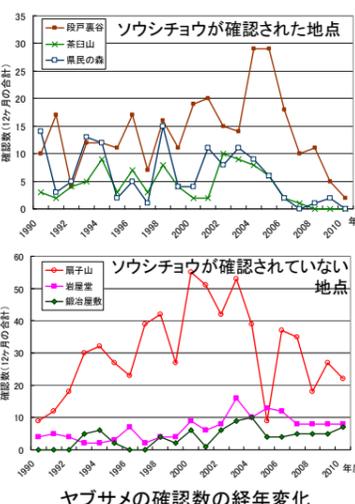
結果



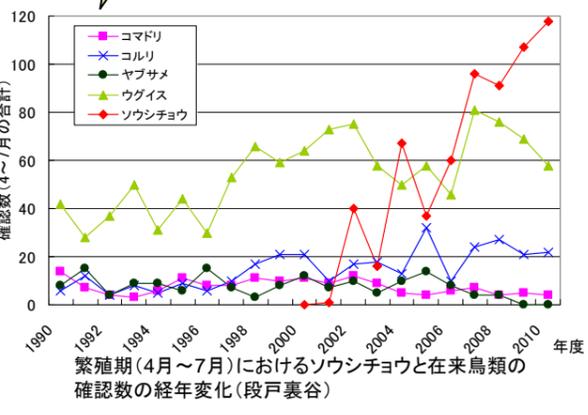
段戸裏谷では2000年度に初確認。年々増加傾向にある。
茶臼山では2007年度、県民の森では2009年度に初確認。



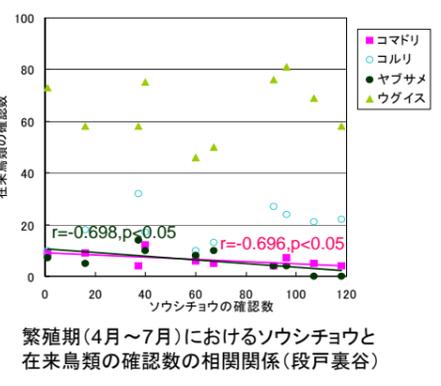
茶臼山では2007年度にソウシチョウが確認されてから、コマドリとヤブサメが確認されなくなった。一方、ウグイスは2007年度以降増加している。



ソウシチョウが確認された地点では、2004年度以降、ヤブサメの確認数が減少傾向にある。
一方、ソウシチョウが確認されていない地点のうち岩屋堂と鍛冶屋敷ではヤブサメの確認数に変化はみられなかった。
↓
ソウシチョウが確認された地点におけるヤブサメの確認数の減少は、愛知県内全体の渡来数が減少したからではない。



段戸裏谷では、ソウシチョウが繁殖期の合計50羽以上(1回/月、計4回)になると、コマドリとヤブサメの確認数が減少する傾向にあった。



段戸裏谷では、ソウシチョウの確認数が増加するとコマドリとヤブサメの確認数が減少する傾向がみられた。

まとめ

- ・ソウシチョウは2000年頃から愛知県で確認されはじめ、県の北東部では確認数が年々増加している。
- ・ソウシチョウの生息が確認された段戸裏谷、茶臼山では、コマドリとヤブサメの確認数が減少する傾向にあったが、コルリとウグイスでは確認数の明らかな減少はみられなかった。
- ・ソウシチョウの侵入により在来鳥類の生息に悪影響を与えている可能性があるため、今後もモニタリングしていく必要がある。